

協会ニュース

令和2年9月11日
中国地区品質経営協会
広島市西区横川町3丁目5番9号(世良ビル404号)
TEL (082) 532-6844 FAX (082) 532-6845
e-mail qmac@a1.mbn.or.jp URL http://qmac.jp/

令和2年度 総会 (講演会・評議員会・トップ交流会)

開催日時 : 令和2年9月2日(水) 13:10 ~ 17:50
場 所 : リーガロイヤルホテル広島 及び WEB 配信による
参加者 : 33企業・団体 249名 (『経営とTQM』講演会)

中国地区品質経営協会の主要行事である令和2年度総会が開催されました。

「経営とTQM」講演会では、一般財団法人 日本規格協会 理事長 揖斐 敏夫 様から、「品質経営のための最近の標準化事例とリスクマネジメントのポイント」と題して、様々な分野で標準化が進み、民間・団体レベルにおいて、独自の特色を持った規格の開発が活発に行われていること、規格開発が自社の困りごとの解決に繋がったり、他社との差別化、競争力アップに寄与すると。また、これからは“PDCAの活用による、発生した問題に対する是正を中心とするマネジメントシステム”に加えて、“際限のないサービス品質の追及を志向するサービスレベル”(イクセルサービス)が重要視され、そのための規格開発の必要性等、聴かせていただきました。

続いて、元株テソー 取締役副社長、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 顧問 土屋 総二郎 様から、「変化に対応して今後も繁栄する「日本のモノづくり」に向けて」と題して、モノづくりを取り巻く環境は変化を続けており、我々は、変化を謙虚に認識し、原点に立ち返ることが重要で、成功体験からの脱却が必要であること。日本の最大の強みは現場力であり、高度経済成長で巨大化、複雑化、大型化したシステム、いわゆる力業から脱却し、この領域を磨くことで競争力があがること。それを支えるのは人であり、いつの時代も「モノづくりは人づくり」は不変であり、モノづくりにおいて、CS3や1/N等無駄の排除も推し進める必要があるが、特にからくり改善は、現場力の更なるレベルアップも期待でき、人づくりに役立つことなどことなどのお話を聴かせていただきました。

いずれの講演も経営者は、人を大切にし、育てていくことが重要であることが伝わり、参加いただいた方々からは、自社の現状や今後を考える上で、非常に重要、かつ有用なヒントや気づきが得られた等、高い評価の感想が寄せられました。

講演会終了後、評議員会が開催され、令和元年度事業報告および令和2年度事業計画、新任・退任役員の承認等が審議され、原案どおり承認可決されました。

なお、今年度のトップ交流会は、中止させていただきました。



一般財団法人 日本規格協会
理事長
揖斐 敏夫 様



元株式会社テソー取締役副社長
公益社団法人日本プラントメンテナンス協会
顧問 土屋 総二郎 様



評議員会の様子